

南会津町議会議長 渡部 康吉 様

産業建設委員会委員長 星 登志一

所管事務調査報告書

所管事務調査について、調査した結果とその内容を下記のとおり報告いたします。

記

- 1 調査日時 平成22年11月5日（金） 午前9時
- 2 調査場所 南会津町内
- 3 調査内容 別紙現地調査報告書のとおり

産業建設委員会現地調査報告書

平成22年11月5日（金）実施

○参加者 星登志一、阿久津梅夫、楠正次、渡部康吉、馬場信作、星和男、平野昌盛

○事務局 星欣一

○現地案内

- ・田島地区、児山建設課課長 大橋建設課係長
丹藤地区 室井健一区長、鈴木義光役員、星 正役員
羽塩地区 渡部伝吉区長
 - ・館岩地区、館岩総合支所長 星不二夫振興課長補佐
 - ・伊南地区 伊南総合支所長、湯田振興課係長
 - ・南郷地区 南郷総合支所長、近藤振興課長、酒井係長、平野区長他2名
-

1 議長室にて委員会開催（am9:00～）

2 丹藤地区 現地調査（am9:30～）

①冬季間の通路確保

- ・現状 地区内の通路が狭いため冬季間の除雪作業に苦慮している。
砂利道のため緊急時の救急作業に苦慮している。
- ・課題 町道になっていない為、現状では町の事業としては実施できない。
- ・対策 地区の協力で町道に編入すること。
町が新たな補助事業を立ち上げる。
除雪し易い状況をつくり、区に対応で除雪システムを作る。

②旧ゴミ処理所までの町道の凹凸が激しく農作物の運搬に苦慮している。

- ・現状 ダンプやトラックの通行量が多いため道路の痛みが激しい。
- ・対策 砂利を敷き凹凸をなくす。

3 羽塩地区 現地調査（am10:15～）

①通学路となっている歩道脇の側溝に蓋がないため、冬季間の通学路としては、子供たちの安全に不安がある。

- ・現状 約500m位側溝に蓋のないところがある。
- ・対策 蓋を設置する。

②農業用水路の構造が悪く、度々水があふれる。

- ・現状 排水の方法や用水路の構造に問題がある。
- ・課題 構造を根本的に見直す。
- ・対策 町で行うことと、地区で維持管理すべき事項を確認する。

4 前沢地区 現地調査 (am11:15~)

①農作業道路が急坂のため橋を造って欲しい。

- ・現状 過去に事業を行った際の工事用道路を現在も使用している。
- ・課題 本来撤去すべき道路であるが便宜上使用している。
- ・対策 橋を作ると相当の一般財源を必要とし費用対効果の面から優先順位が低くなる。過去の経過を説明し現状の使用方法が望ましい。

②林道の崖崩れが危険な状態にある。

- ・現状 崖の土質が砂地のため雨による崖崩れが多い。
- ・課題 砂地のため、災害の基準値に達しない少量の雨でも崖崩れが発生し、町の単独事業となる。単独事業の工事は相当の金額となるため、新たな補助事業を捜す必要がある。
- ・対策 補助事業を見つけるまでは、崩れたときに早急に復旧すること。
また、近くの橋も補修整備の必要がある。

5 宮里地区 現地調査 (pm12:50~)

①さいたま市自然の家への進入路

- ・現状 進入路の橋が狭く、途中の道路も狭隘で維持管理が難しい。
年間4万人の利用者があるため改善の余地がある。
- ・課題 さいたま市では、合併に伴う公共施設の見直しをしている。
自然の家については増築の話もあり、さいたま市の対応を見てからの検討が必要。
- ・対策 当面は増築の話が進むよう南会津町としての環境づくりが必要。
- ・関連課題 たかつえスキー場の学校用ロッジの建設が必要。
清水市長は「松下政経塾」の出身であり、現場主義や市民参画を推進している。ロッジを作る際もさいたま市の学生参加による設計図作成も町としての環境作りには役立つのでは。

6 白沢地区 現地調査 (pm1:15~)

①林道矢竹~阿多根線の外部者進入禁止対策

- ・現状 工事用門扉が取り付けられている。現在は工事者のみの立ち入りである。
- ・対策 工事終了後は、工事用門扉の活用も含め、地区住民と話し合い、決定することが望ましい。

②小野木医院への冬季間通行路の確保

- ・現状 小野木医院より白沢地区方面に200mほど除雪をしているが、地区へは1kmの除雪が必要。高齢者の多くが車道通行をするため冬季間の安全確保のためには、乗用の歩道除雪車が必要。
- ・対策 歩道除雪車は西部地区の他の場所でも利用可能となるため検討が必要。

7 東地区 現地調査 (pm3:30～) 砂防ダム・治山ダム

①井出沢砂防対策

- ・現状 6月29日の豪雨による影響は添付資料のとおりであるが現在は復旧している。
- ・対策 公共施設等に影響が出ているため、ダム建設にかかる用地や立ち木補償のある建設事務所関係の砂防ダム建設で県と交渉を進め、11月12日県の現地調査が予定されている。

②唐倉沢治山対策

- ・現状 6月29日の豪雨による影響は添付資料のとおりである。現在も流木の残骸が存在している。当地域は公共施設等には影響がないため、農林事務所関係の治山事業でダム建設の要望を権と交渉中。
- ・対策 治山事業のため用地買収や立ち木補償がないため関係者の理解を得ることが大切。